

# 四国カブトガニを守る会が第1回えひめ環境賞を受賞



▲四国カブトガニを守る会会長の山路武人さん（左）（表彰式にて）

地域の環境保全や環境創造の活動に貢献した個人や団体をたたえる「第1回えひめ環境賞」に四国カブトガニを守る会が選ばれ、2月8日に県庁で表彰式が行われました。

守る会は、カブトガニの絶滅と環境破壊を危惧する人びとが集まり、平成元年12月に東予市カブトガニを守る会として結成されました。

以後、住民や学校、行政が一体となって河原津海岸におけるカブトガニの幼生放流やカブトガニフェスティバルの開催などカブトガニの保護と併せ、海岸清掃や環境調査といった活動を継続して行い、生物・生態系の保護と市民環境意識の高揚に大きな成果を上げています。

※昨年の市町合併に伴い、会の名称は東予市カブトガニを守る会から四国カブトガニを守る会に変更されています。

## 絶滅の危機にあるカブトガニ

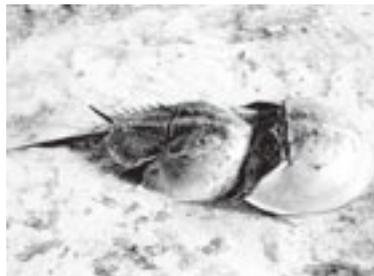
カブトガニは2億年以上も前から、その姿を変えないまま現在まで生き続けていることから「生きていく化石」といわれます。

昭和30年代後半までは、瀬戸内海沿岸から九州北部の沿岸にかけて数多くのカブトガニが生息していました。旧東予市一帯の海岸では特に多く見られ「カブトガニ天国」といわれるほどでした。

郷土のカブトガニ研究の第一人者である故篠原栄吉氏は「カブトガニが住めないようなところは、人間も住めなくなる」とカブトガニと自然環境の保護を訴え、その努力によって、昭和24年に旧東予市

一帯の海岸はカブトガニ繁殖地として県の天然記念物の指定を受けました。

しかし、経済発展に伴う環境汚染や海岸埋立などの影響によってその数も次第に少なくなり、現在ではほとんど姿を見ることができなくなりました。



▲カブトガニは海の世界を示すバロメーターです。

## 保護活動の内容

市と守る会では、今後もカブトガニと自然環境の保護活動を進めていきますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

主な保護活動事業は次のとおりです。

### ■幼生放流

毎年6000〜1万匹の1齢幼生を放流しています。カブトガニは脱皮した回数を何齢と数え脱皮ごとに約1・3倍大きくなります。

■カブトガニフェスティバル  
講演会やディスカッションを行い、参加者にカブトガニや環境保全について学習してもらいます。

■カブトガニふれあい教室  
保育園や幼稚園、学校から要望があれば、カブトガニを連れて行き、間近で見たり触れたりすることが出来ます。

■カブトガニ探検隊  
河原津海岸で幼生を探しながら干潟の生き物を観察してもらいます。

### ■海岸清掃

カブトガニがすめるきれいな海づくりのため、幼生放流やカブトガニ探検隊のときに海岸清掃を行います。



▲市民による河原津海岸の清掃活動

### ■幼生飼育ボランティア

カブトガニに関心を持ってもらうため、家庭や学校での飼育をお願いしています。また、少し大きく育ててから放流することで、生存する確率が高くなります。

### 生きた化石を見よう

東予郷土館と東予総合支所ロビーでカブトガニを飼育していますので、実際にご覧いただけます。

また、東予郷土館では、カブトガニの生態などについて標本や写真で詳しく紹介しています。

保護活動の詳しい内容や守る会への参加を希望するかたは、東予郷土館へお問い合わせください。

問合せ 東予郷土館（TEL 0898-65-4797）

## 伝えたい きれいな海とカブトガニ

河原津海岸は「水質に問題もなく、カブトガニが復活するとすれば、この地しかないだろう」と大学の研究者が期待する海岸であり、幼生放流や海岸清掃など、地域が一体となって保護活動に取り組んでいます。

平成13年8月には5cm（6齢）まで成長したカブトガニの幼生が初めて発見され、カ

ブトガニの成育の可能性が実証されました。

カブトガニを守ることは、

魚や貝などの漁場や自然環境を守ることであり、ひいては私たち人間の生活を守ることにつながります。



▲発見された幼生